

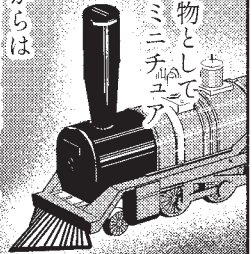
嘉永六（一八五三）年
ペリー来航

このとき
二〇〇年以上に及ぶ
鎖国の影響で日本は
世界から完全に
取り残されていた

アメリカ合衆国
東インド艦隊司令長官
マシュー・ペリー

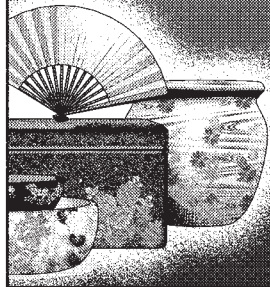
ペリーは
将軍への贈り物として
蒸気機関車のミニチュア
を献上し

日本側からは
絹織物、漆器、陶磁器などの
伝統工芸品が贈答された



日本は野蛮人の
国だな

先進国・アメリカ
との差は明らかだ
……ふんっ





たしかにこの時
「先進国には
ほど遠かった
日本、しかし—



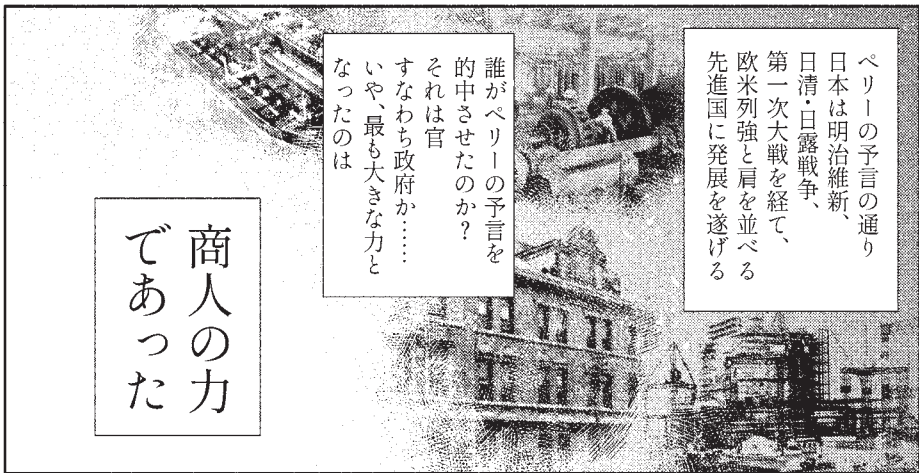
この繊細で
高度な手仕事……

美しい

日本は
いずれ……

我々の強力な
ライバルになる

「日本は、最も成功している工業国に遅れをとったままではないだろう。彼らの好奇心と適応力、敏速さ(…)世界で最も恵まれた国々と並ぶ水準にまで押し上げるであろう。ひとたび文明世界の過去及び現在の技能等を手に納めたら、日本人は、将来機械工業の成功をめざす競争に、強力な競争者として加わるであろう。」
『ペリー提督日本遠征記』より



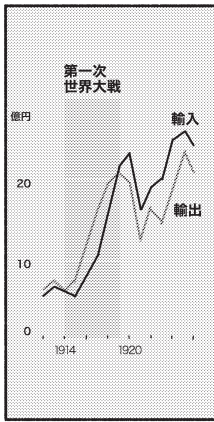
ペリーの予言の通り
日本は明治維新、
日清・日露戦争、
第一次大戦を経て、
欧米列強と肩を並べる
先進国に発展を遂げる

誰がペリーの予言を
的中させたのか？
それは官
すなわち政府か……
いや、最も大きな力と
なったのは

商人の力
であった

大正三(一九一四)年に勃発した
第一次大戦を契機に

日本は
貿易黒字国と転じ
債務国から債権国へ



日本が開国後
もっとも輝いた
この時期を牽引した
3つの企業群こそが
双日の源流

鈴木商店

日本の総合商社に上りつめ
製造業を中心に
80もの事業会社を設立



岩井商店

輸入品の国産化を強力に推し進め
のちに最勝会とよばれる
製造事業群を次々と立ちあげた



日本綿花

当時最大の産業であった紡績業に
世界中から原料である棉花を調達
製品である綿糸・綿布を輸出し
膨大な外貨をもたらした



彼ら双日の先人たちは
溢れる起業精神と
発想実現力で
多彩な事業を展開し
次代を見据えてきた……

そのDNAを受け継ぐ、
双日とは何者なのか――

これは
その本質を探る
物語である



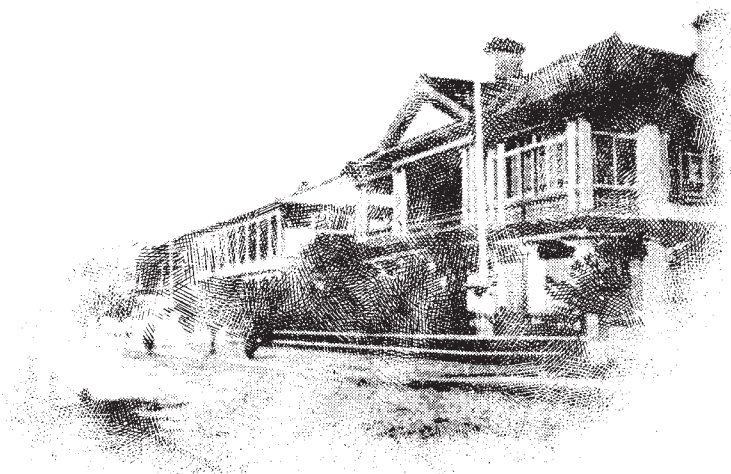
sojitz

Hassojitz

発想 × **sojitz**

第1章

屈辱の神戸居留地貿易



Hassojitz

総合商社 双日
未来を創造した先駆者たち



岩井勝次郎、鈴木よね、金子直吉
～若き日の先駆者たち

慶応三（一八六八）年
神戸開港

鈴木商店は
明治七（一八七四）年に
鈴木岩治郎が
「洋糖引取商」として
神戸で創業した

岩治郎の妻はよね
のちに「お家さん」と呼ばれる



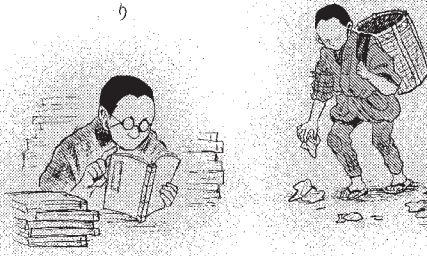
そして
土佐から丁稚として
入店したのが二〇歳の
金子直吉である



金子直吉やき
今日から
お世話に
なりますき

金子直吉は土佐
吾川郡名野川村に
生まれた
紙くず拾いで
生計を立てる貧しい
生活であった

その後
高知市内に移り住み
質屋で質に入った
本を読み漁るようになり
同じ土佐出身の
坂本龍馬に
憧れるようになる



わしは質屋大学で
勉強しよるがよ
いつか坂本龍馬の
ように日本を
変えちやるき……！

金子直吉の入社後
鈴木商店は神戸有力
八大貿易商の
一社にまで発展



しかし

これからというときに
店主の鈴木岩治郎が
急死してしまう



このまま
廃業か……

やっと
ここまで
大きゅう
なった店が

しかし
主^{しゅ}なしでは……



一切の責任は私がとる



なお
直どん！
好きにやりなはれ

……
お家さんっ！！

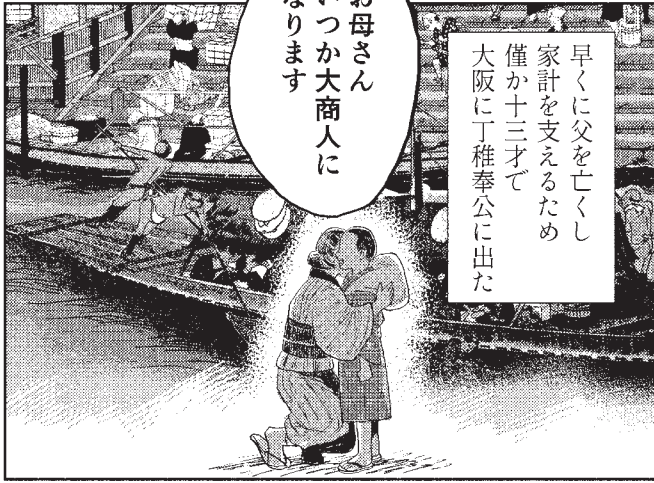
よねは信頼する
金子直吉と柳田富士松の
両番頭に一切の経営を任せ
鈴木商店を継続することに
決めたのであった

一方
岩井商店の
岩井勝次郎は
京都府亀岡旭町の
蔭山家に生まれた



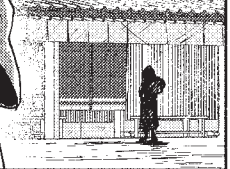
早くに父を亡くし
家計を支えるため
僅か十三才で
大阪に丁稚奉公に出た

お母さん
いつか大商人に
なります



勝次郎の奉公先は従兄が
文久二(一八六二)年に
創業した
加賀屋岩井文助商店
であった

加賀屋岩井文助商店



本日よりお世話に
なります！



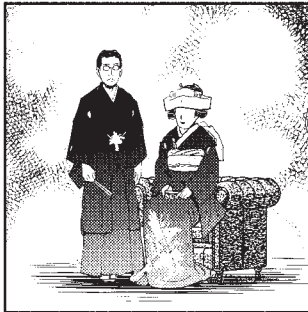
ここは
雑貨舶来商といってな
長崎から入ってきた
異国の商品を扱うんだ
しっかり働け

はい！



岩井文助商店は
大阪の著名商社として
「中船場の三傑」と
いわれるほどに成長

勝次郎は
文助の娘と結婚し
明治二九(一八九六)年
に岩井商店として
独立を果たした



金子直吉と
岩井勝次郎

この2人が通ったのが
神戸の外国人居留地
である

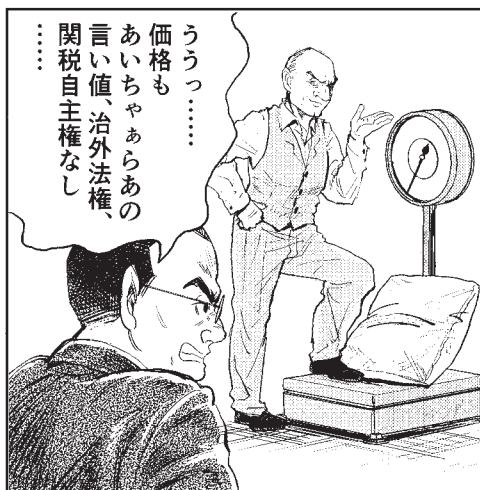
そこで
目の当たりにしたのは
不平等条約に象徴される
日本の地位の低さ
であった



なんで買い手の
我々が裏口から
入らなければ
ならないんだ！



ううっ……
価格も
あいちゃあらの
言い値、治外法権、
関税自主権なし
……



日本は産業を興して
一流国の仲間入りを
しなければならぬ
でなければ
いつまでたっても
馬鹿にされ続ける！



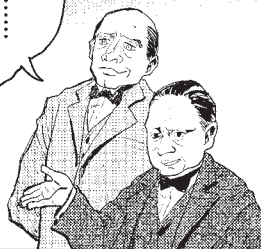
岩井勝次郎は
外国人居留地の
商館を通さず
海外の商社と
直接貿易を開始

岩井サン
海外と直接なんて……
我々を通してもらえれば
あなたが直接買うのと
同じ値段で販売します

No!

我々は日本人の
ために働いている

人の足元を見て暴利を
むさぼるあなたたち
とは商売することは
できない



高橋さん！
外国人は
トラストレシート
(輸入荷為替)で
引き取れるのに

なぜ日本人は
洋銀前払いで
なければ
輸入貨物が
引き取れない
のですか

横浜正金銀行副頭取
たかほしこれきよ
高橋是清



外国人と日本人の
区別ではない
単に君に信用が
ないからだ

ぐっ……

なんとかせねば
ならぬな

おおっ！



……ただ



岩井勝次郎は
担保を差し出すことで
商店として初めて
銀行発行の信用状で
荷物を引き取った



トラスト・レシートの
普及により
日本の貿易は
より発展していく

……一方の
鈴木商店の金子直吉も
順風満帆とはいか
なかった



お家さア……
すみません



金子直吉は
外国人が樟脳を
買い占めて
高騰しているのを
知らず先物取引で
失敗

鈴木商店を
破綻させる
ほどの損失を抱え
廃業の危機を
迎える



責任は
私がとると言うた



しゃあないな
なんとかする

あんたはあんたで
やれることをしなさい!



少ないけど
この示談金で何とか
してくれんかのう
無理や言われる
がやったら

今ここで
切腹しちやるき



他人の物を売って
チマチマしよるき
商人は卑しい
言われるがよ

やっぱし
自分らで
モノをつくって
売らないかんわ

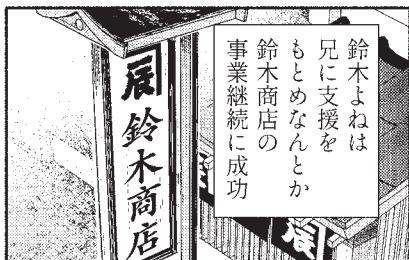


Wait……
わかった
わかった

Oh……!?
ハラキリ!

金子直吉は
鈴木よねに対する
忠誠を高めていく

お家さんの
ために
世界の鈴木に
しちやるき



金子直吉と
岩井勝次郎
二人は屈辱を
味わった二方
外国商館で
海外の先進的な
商品とも
出会った



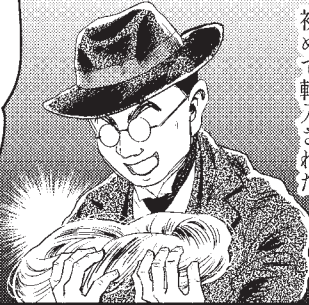
世界で初めて開発された
プラスチックセルロイドは
明治元(一八六八)年に
米国で発明され
明治二〇(一八七七)年に
神戸の外国人居留地
22番地の
フランス商館に
初めて輸入された

これが
セルロイド
製品か……
世界初の
プラスチック
なるほど……



蚕ではなく
化学の力で
つくる糸「人絹」
人造絹糸は
明治二五(一八九三)年に
フランスで初めて生産が
開始され翌年に
14番地の英国商館に
初めて輸入された

ほお！これが
化学でつくった
シルクか
この輝き……
これが欧米では
大量生産され
とるのか！



日本で作りたい！
いつまでも外国
頼りではいかん！！

